

実を結ぶ教え

2014/2/16

コロサイの信徒への手紙

コロサイの信徒への手紙1章6～8節

あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。

あなたがたは、この福音を、わたしたちと共に仕えている仲間、愛するエパfrasから学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者であり、また、“霊”に基づくあなたがたの愛を知らせてくれた人です。

「福音」とは

「あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。」1:21-22

- ▶ 以前は神に敵対し、裁かれる定めにあった
- ▶ 御子イエス・キリストの死によって赦された
 - 私たちの努力によるのではなく
- ▶ 決して神にとがめられることはない。むしろ「聖なる者」(完全な者)とされた

浄土真宗(南無阿弥陀仏)

▶「阿弥陀仏」

- 「無量の光明の仏」の意。衆生の積むべき往生行の功德のすべてを代って完成した
- 架空の神様

▶「南無」

- 帰依(より頼む)ことで浄土に往生させる
- 自分ではダメなので阿弥陀仏に頼る(他力本願)

▶「無量寿経」に記されている

- 成立は紀元後2世紀
- そもそもの釈迦の教えにはなかった

福音は人によって伝えられる

- ▶ 「神の恵み(福音)を聞いて真に悟った」ならば、何の心配ものなく生き、死ぬことができる！
 - 福音は「生き証人」によって伝えられる
 - 神様は「直接」語りかけない
- ▶ コロサイ地方に伝えたエパfras
 - 「あなたがたは、この福音を、わたしたちと共に仕えている仲間、愛するエパfrasから学びました」
 - エパfrasはおそらく(エフェソにいた?)パウロから福音を聞き、コロサイ地方に伝え、教会ができた
 - 今は、コロサイ教会の問題を相談しにローマにいるパウロのもとを訪れている

フランシス・ザビエル

- ▶ インドの西海岸ゴアを拠点に宣教していた
 - カトリック教会イエズス会の修道士
- ▶ マラッカ(マレーシア)で日本人ヤジロウに会う
 - 鹿児島で罪を犯しポルトガル船で逃げた
- ▶ ヤジロウから日本のことを聞き、日本に来る
 - 船旅は困難を極めたが4ヶ月後に到着(1549年)
 - 決して植民地政策の一環として来たのではない!
- ▶ 都が荒廃していたため、山口と大分で宣教
 - 2年あまりで日本を離れ、中国で死去
 - 江戸時代に禁教になるまで多くの日本人が信じた



実を結んで成長する

- ▶ 「神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています」
- ▶ 福音は人間を創造の本来の目的に引き戻す
 - 人は「愛」である神に「かたどって」造られた
 - 結婚も家族も社会も「愛」を実践する場
- ▶ 「愛」とは自分に死ぬこと
 - 「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」
 - 自分に死ねば自分自身も周囲も豊かになる

黒田官兵衛

▶ 戦国時代の武将

- 豊臣秀吉の側近として活躍
- 私利私欲や権力闘争ではなく、殺戮を避け、一途に住み良い世を目指した

▶ キリシタン大名であった

- 20代前半、京都で福音を聞き受洗か？
- 棄教説もあるが、葬儀はキリスト教式だった

▶ 文書に押された印章

- 二重丸の中心に十字架，その外側に“SIMEON JOSUI”と彫られている
- シメオンは洗礼名。「如水」は晩年の名前旧約聖書のヨシュアから？



実を結ぶ教え

あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところで、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。